



目次 contents

- P1 ■ 令和7年度定期総会開催報告
 - ・会長あいさつ
 - ・永年表彰
- P2 ■ 共助事例発表会
- P3 ■ 市町村コミュニティ協議会の取組
- P4 ■ 会員紹介

令和7年度定期総会開催報告

令和7年6月12日(木)に定期総会を開催しました。永年表彰や共助事例発表会が行われたほか、事業報告や事業計画等の審議を行い原案のとおり承認されました。

会長（大野 元裕 埼玉県知事）あいさつ



彩の国コミュニティ協議会会長
埼玉県知事 大野 元裕

本日は彩の国コミュニティ協議会、令和7年度定期総会を開催させていただきましたところ、大変御多忙の中、御参加をいただき、誠にありがとうございます。

また、それぞれの地域活動を通じ、地域そして社会を元気にしていただいている皆様、特に子育て支援、環境、美化、防災などの各分野にわたり御協力をいただいていることに御礼を申し上げます。

今日は長年にわたり、コミュニティ協議会に対し、多大なる御協力をいただいている皆様に対し、表彰をさせていただくことといたしました。長い間の御労苦に対し、改めて感謝申し上げます。

表彰を受ける皆さん、そして表彰を受ける方々が所属する団体の皆様におかれましては、それぞれ多大なる御協力、御尽力を長年にわたりいただ

てきたものでございます。埼玉県は今、人口減少、超少子高齢化、あるいは激甚化、頻発化する災害など歴史的な対応に待ったなしの状況に直面しています。それぞれの皆様の活動分野で御協力をいただくことのみならず、地域の中での団体やそれぞれの個人の連携が何よりも求められている時代になっているのではないかと考えています。是非、皆様のお力を賜り、人生100年時代、みんなが長生きし、安心安全な社会となりますよう、お力添えいただきますことをお願い申し上げます。

結びに、コミュニティ協議会並びに協議会に参画のそれぞれの団体の皆様のますますの御発展と、本日御参加の方々の御健勝、御多幸を祈念申し上げ、私からの御挨拶とさせていただきます。



▲総会当日の様子

永年表彰

彩の国コミュニティ協議会及び市町村コミュニティ協議会の役員として20年以上にわたり尽力された7名の方に対し表彰を行いました。総会当日に出席された方には、会長（大野 元裕 知事）から表彰状と記念品のフォトスタンドが授与されました。



▲大森氏



▲清水氏



▲山口氏



▲宮原氏



▲齋藤氏

【受賞者】

- 大森 弘 氏（川口市コミュニティ協議会）
- 清水 良介 氏（志木市コミュニティ協議会）
- 山口美智江 氏（志木市コミュニティ協議会）
- 宮原 正幸 氏（志木市コミュニティ協議会）
- 清水 澄兄 氏（桶川市コミュニティ協議会）
- 田井 文子 氏（伊奈町コミュニティづくり推進協議会）
- 齋藤勢津世 氏（羽生市コミュニティ協議会）



彩の国コミュニティ協議会 令和7年度共助事例発表会

共助の取組や手法を共有し、県内全域で「共助社会づくり」に取り組めるよう、共助事例発表会を開催しました。

「事業継承・世代交代にもつながる“地域連携”でまちづくり」

地域連携でまちづくり

なるべく団体同士の連携が生まれるように仕掛けています。健康ウォーキングクラブから、地域の危険箇所を歩きながら確認する「防災まち歩き」をしたいと相談がありました。その地域の自治会の方のほか、防災支援の団体や防災や地理を学ぶ大学生にも声をかけたところ、「地域の課題」と「それぞれの希望や得意なこと」を出し合ったことで、自治会の「地区防災計画づくり」にもつながりました。

他にも、商業施設と協力し、空きスペースを活用して市民活動団体の活動発表やイベントを実施。市民活動団体が今まで情報を届けることができなかった層や、市民活動に関心あまりない方々、若い世代へのアプローチになりました。商業施設にとってはシニア層に足を運んでもらう機会の創出にもなりました。

熊谷市市民活動支援センター センター長
立正大学 地域連携コーディネーター

おごせ
生越 康治 氏



▲熊谷市市民活動支援センター
(運営:NPO法人NPOくまがや)
生越 康治 氏

事業継承・世代交代にするためには？

多くの団体が高齢化、担い手不足、後継者育成に悩んでいます。地域の状況や社会の課題は5年、10年で変化していくので、現状に合わせて運営方法なども柔軟に変えることも必要です。若い世代や新しいメンバーを迎えたいと考えていながら、現状は変えたくないという思いになっていないでしょうか。自由に意見交換ができる雰囲気はつくることができます。団体を任せたい人に加勢してもらおう際には、任せたい人の仲間も誘ってもらい、同じ世代だけの構成にしないなどの工夫も必要です。私たちの団体は2度の代表交代や世代交代がありました。その際にはメンバーが多世代だったこと、地域連携に取り組んでいたことで、多様な立場の方たちの関わりや応援があったことで実現できました。

なにが「不足」しているのかを突き詰めて考えることも大切です。リーダー、新会員、若い世代、活動資金など、足りないものを具体的に話し合うと意外と解決策が出てくることもあります。また、引き継ぎたいのは「組織・団体」なのか「活動・成果」でしょうか。地域にとって失くしてはいけないモノ・コトを他団体とも検討し、自分たちが変化できるもの、残したいものを明確にしていくと若い世代、次世代との連携も生みやすくなります。

市町村コミュニティ協議会事例発表「なつやすみ よしかわクイズラリー」

事業を始めた経緯

コロナ前に実施していた「魚つかみとり大会」は、開催が1日のみであることや夏の屋外開催、参加者数の制限など課題がありました。そこで、コロナの制限が緩和され、市民が安心・安全に楽しめる事業として、多くの子どもたちが参加可能で、夏休み期間に施設内で開催できるクイズラリーを企画しました。

毎年大好評!

市内在住・在学の小学生以下の子を対象とし、例年、市内の公共施設である、市民交流センターおあしす、児童館ワンダーランドで開催しています。施設内で「吉川市では、なまずを食べられるお店があるか」など吉川に関するクイズを出題しています。クイズラリーで合言葉を集めて応募すると、地元企業で製作している商品など吉川市にちなんだものを抽選でプレゼントしています。クイズラリーの用紙は、市内保育園、幼稚園、小学校へ配布を依頼するとともに、公共施設にも配架しています。

地元への愛着へ

クイズを通し、吉川を知ってもらうことで、より吉川市に愛着を持ってもらえるようになったと思っています。また、普段行かない施設に行くきっかけにもなっています。景品を吉川市内の会社に頼むことで、会社のPRに繋がり、子どもたちにも吉川市内の会社を知ってもらうことができました。

吉川市コミュニティ協議会 会長 石井 亮英 氏
事務局 渡辺 滉大 主事



▲吉川市コミュニティ協議会
会長 石井 亮英 氏
事務局 渡辺 滉大 主事



▲なつやすみ よしかわクイズラリー

市町村コミュニティ協議会の取組

彩の国コミュニティ協議会では、市町村協議会が行う事業に対して助成をしています。助成事業について、一部御紹介します。



蕨市コミュニティ運営協議会研修会(蕨市コミュニティ運営協議会)

蕨市コミュニティ運営協議会は、蕨市民憲章に掲げる理想の町(心のふれ合いのある豊かな住みよい地域社会)を築くために地域におけるコミュニティの醸成とその活動の促進に努めることを目的としています。

各地区で活躍されているコミュニティ委員の皆さまが、地域住民とともに、より良いコミュニティ活動を行うための動機付け及び知識の習得を目的に、特定非営利活動法人日本トイレ研究所の加藤篤さんにご講演いただきました。

加藤さんからは、「能登半島地震・避難所等のトイレの被害状況や今後の災害時におけるトイレ対策および支援のあり方について」をテーマに、災害時のトイレ・衛生対策の基本知識や運用方法について、お話しいただきました。

今回の講演会をきっかけに、地域の連携を深め、安全・安心なまちづくりに取り組んでいきます。



▲研修会の様子

町内一斉クリーンウォーク(杉戸町コミュニティづくり推進協議会)

杉戸町コミュニティづくり推進協議会では、町と地域が一体となり、清潔で美しいまちづくりを目指して、毎年11月に「町内一斉クリーンウォーク～歩いて 拾って 美しく～」を開催しています。

この活動は、町内各地に捨てられたゴミを清掃することで、環境美化への意識を高めることを目的としています。「クリーンウォーク」の名前には、清掃しながら歩くことによる健康増進や、地域コミュニティの活性化につなげたいという思いも込められています。

実施にあたっては、町内45の行政区から参加者を募り、各区で清掃活動にご協力いただいています。令和6年度は軽トラック8台分ものゴミが集まり、人通りの多い場所から普段なかなか清掃できない場所まで、町内全体が生まれ変わったように綺麗になりました。

今後もこのようなイベントを通じて、安心・安全なまちづくりに取り組んでまいります。



▲参加者が清掃をする様子

美しい町、防犯のまちづくり事業(皆野町コミュニティ協議会)

皆野町コミュニティ協議会は、町内の27団体から選出された委員により構成されており、「自治との連帯」の新しい時代にふさわしいコミュニティづくり運動として総合的に展開し、心豊かな住みよい地域社会をつくることを目的に活動しています。

活動の一つとして、「美しい町、防犯のまちづくり事業」を令和6年11月1日(金)に実施しました。令和6年度は800株400組のピオラの花の苗のほかに、街頭犯罪への注意喚起のチラシを併せて配布しました。美しい花で町を明るく彩ることで美しいまちづくりをするとともに、地域の防犯意識を高めることで、防犯のまちづくりの推進を図ることができました。

今後もこのようなイベント・事業を通して、コミュニティ活動の推進に取り組んでいきます。



▲花の苗・チラシの配布



株式会社武蔵野銀行

武蔵野銀行は「地域共存」「顧客尊重」の経営理念のもと、地域社会とともに発展し、地域の人々や企業に信頼される金融サービスを提供しています。

また、地域社会への貢献の一環として、子ども支援に積極的に取り組んでいます。この取組では、当行の取引先である地元企業の皆さまと協働事業や共助を行い、地域の未来を担う子どもたちに様々な支援を提供しています。

取組事例では、食品宅配業のお客さまと子ども食堂での料理体験教室、お菓子製造業のお客さまとの工場での青空子ども食堂、クリーニング業のお客さまとの店舗で回収した子ども服の無償譲渡会など、お客さまの業種などに応じて、子どもたちが笑顔になる企画を考え、協働で開催しています。

このほか、地元の小中学校への金融教育の出前授業や、職場体験の受け入れを実施し、子どもたちの未来を支え、地域社会の発展に寄与することを目指しています。



▲子ども食堂料理体験教室



▲子ども服無償譲渡会

埼玉県信用保証協会

信用保証協会は、信用保証協会法に基づき設立された公的機関で、全国に51の信用保証協会があります。中小企業・小規模事業者が事業経営に必要な資金を借入れする際に、その保証（信用保証）をすることで資金調達を円滑にしています。

当協会では地域貢献の取組の一環として、中小企業支援機関が果たす役割への理解等を通じ、地域経済を担う人材の育成に寄与することを目的として学生向けに特別講義を実施しています。

今年度は埼玉大学と獨協大学の2校に対し実施し、参加した学生からは「考えているよりも日頃の生活でも中小企業との関わりがあることが分かり、その支援の重要性について知ることが出来てよかった」「中小企業の情報を得ることは難しく、今回の講義であり方を知ることができてよかった」等の感想をいただきました。

当協会は今後もこうした活動を通じ地域貢献活動に取り組んでまいります。



▲埼玉大学での講義



▲獨協大学での講義



埼玉県農業協同組合中央会

私たちJA埼玉県中央会は「JAグループさいたま」の一員として、地域農業の発展や農業者の所得向上を目指して活動しています。農業者の声を集めた政策提言や食や農に関する広報活動を通じて、埼玉の農業振興を行っております。

取組の一つ「みどりの学校ファーム」は、県内の小・中学校に野菜苗や種を配布し、農作物を育てる体験を通して、農業の楽しさや大変さを知ってもらう活動を行っています。

また、「彩の国 食と農林業の祭典ドリームフェスタ」は、行政と連携し、農産物や加工品の販売、食に関するイベントブースの出展を行っています。その他、県産農産物の販売促進に係るキャンペーン、情報誌の発行等を行っています。

これからもJAグループさいたま一丸となって、地域農業の発展に向けて全力で取り組んでまいります。



▲「みどりの学校ファーム」で配布する苗



▲彩の国 食と農林業の祭典ドリームフェスタ